

転作田利用による飼料生産基盤定着条件の解明

福島県畜産試験場草地飼料部
平成15年度試験成績概要

1 部門名

飼料作物－その他－農業生産構造
分類コード 08－99－61000000

2 担当者

矢内清恭・大槻健治・柳田和弘・佐藤茂次

3 要旨

水田の機能を維持しつつ既存の栽培技術や機械を利用し、自給飼料の確保に結びつく飼料用イネに関心が高まっている。転作田を有効に活用するため、耕種農家と畜産農家が結びつき飼料用イネが飼料生産基盤として定着するための要因、条件について調査した。

- (1) 飼料イネのメリットとして耕種農家は、「水田をそのまま利用できる転作作物として取り扱いやすい」、「耕作放棄地の解消になる」、「耕畜連携により堆肥の受給等のメリットがある」、「復田が容易である」をあげている。
また、畜産農家は、「飼料費の節減になる」、「耕畜連携により堆肥の供給等のメリットがある」、「飼料価値が高い」等をあげている。
- (2) 一方、飼料イネに取り組んでいない理由としては、耕種農家では「畜産農家が見せない」、「畜産農家との作業分担が面倒」、「圃場条件が悪い」、「他の作物で転作が定着している」、が多かった。
また、畜産農家では「飼料価値に疑問がある」を理由にあげる農家が196戸中149戸(76%)と圧倒的に多かった。
- (3) これらのことから、耕種農家と畜産農家を結びつける組織的な取り組みをし、飼料イネの飼料価値を啓発することによって普及・定着が進むものと考えられた。
また、耕種農家における認知度が低いことや、「資料が欲しい」、「PRが足りない」という要望・意見が多かったことから、農家個々への情報提供が必要と思われた。

4 その他の資料等

なし